

第2回

ビジネスアーキテクチャ人材の育成 に関するタスクフォース

2025年7月15日

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

独立行政法人 情報処理推進機構

議事次第

1. 開 会 （5分）

（1）前回タスクフォース振り返り

2. 議 事 （110分）

（1）ビジネスアーキテクトについて[共有]（35分）

（2）各社取り組み紹介[共有/意見交換]（75分）

- 中外製薬
- 三井住友フィナンシャルグループ
- LINEヤフー

3. 閉 会 （5分）

（1）次回開催のご案内

1. 開会(1)：前回タスクフォース振り返り

いただいた主なご意見

- ビジネスアーキテクトの認知度向上が課題であり、重要なテーマとなっている。そのためには、ソフトスキルの定義と育成方法、企業内に導入する3つの仕組みのロードマップが必要。それが整えば日本国内での普及が進む可能性がある。
- 言葉の定義を明確にすることが必要。「ビジネス変革」と「業務変革」の違いやロールを定義し、この人材が何をインプットし、どんなプロセスを経て、何をアウトプットするのかを定義してから議論を進めた方がよい。日本の企業やITベンダーの組織構造を再確認し、ビジネス部門とIT部門のどちらに含まれるか、認識を合わせたい。
- SAPのアプローチが参考になる。SAP社は、クラウドビジネスに移行するために必要なITプロジェクトのケイパビリティマップを作成し、15年間のトランスフォーメーションを行った。このプロセスはアジャイルを基盤にしないと日本では成功しにくく、従来のウォーターフォール型の企業には適用が難しい。新しいモデル設計を考える必要があり、企業のドメインによってビジネスアーキテクトの配置方法も異なると考える。
- 組織や事業の成熟度やシステムなどに応じ、ITベンダーへの依存度が高くなる。ITベンダーへの依存度の高さは、日本企業の特徴の一つ。企業の成熟度にあわせた機能配置や依頼先についても、各社事例も踏まえ議論したい。

2. 議事(1) : ビジネスアーキテクトについて

塩田委員/山本主査より

2. 議事(2)：各社取り組み紹介/意見交換

各社取り組み紹介/意見交換

- 各社の取り組み紹介を行う目的は、これからビジネスアーキテクチャ人材(ビジネスアーキテクト、ビジネスアナリスト、プロダクトマネージャー)のデジタルスキル標準(DSS)見直しを検討するにあたり、より実際の業務に近い人材像を定義していくためです。
- 各社の取り組みや定義、本意見交換の内容を今後のドラフト作成のINPUTとします。

① 中外製薬社

② 三井住友フィナンシャルグループ社

③ LINEヤフー社

■ 進め方(計：75分)

各社(25分)×3社

✓ご説明：15分

✓質疑：10分

●意見交換のポイント

□観点

- | | |
|------------|--|
| ① 組織体制： | どのような組織体制で行っているか |
| ② 役割・業務内容： | ビジネスアーキテクチャ人材はどの組織にいて、役割・業務内容はどのようなものか |
| ③ 必要スキル： | ビジネスアーキテクチャ人材の必要スキルはどのようなものを求めているか |
| ④ 人材育成の方法： | ビジネスアーキテクチャ人材の育成方法はどのようなものか |

3. 閉会